

57年度予算決まる

今年度のまちづくり

一般会計 5,550,000,000円

特別会計 1,256,832,000円

三月八日から二十三日まで開かれた第一回定例市議会で、昭和五十七年度の日光市予算が可決されました。この予算は四月一日から五十八年三月三十一日までの「まちづくり」の基本となるものです。予算総額は、一般会計、特別会計をあわせて六十八億六千八百三十三万二千円となっています。

また、斎藤市長は今回の議会で本年度の施政方針を述べ、その中で同市長は「近年の人口減と観光客の漸減をはじめ、困難な多くの問題を抱えているが、このような情勢の中で、過疎化対策をはじめ本市が直面している諸問題を、少しでも早く、一つでも多くの解決をみるための初年度であると自覚し、可能な限りの財源と施策を考慮して予算編成をしました」と、市政運営の基本方針を明らかにしました。

予算の規模

一般会計は五十五億五千万円（〇・一％増）、特別会計では、国民健康保険費七億五千三百一十一万一千円（〇・五四％減）、ユースホステル事業費一千八百七十九千円（七・九二％減）、小来川診療所費二千六百四十九万六千円（〇・六八％減）、下水道事業費四億五千九百四十四万六千円（六・六四％減）となり、一般会計と特別会計を合算しますと六十八億六千八百三十三万二千円で、前年同に比べ、額で三千二百五十二万九千円、率で〇・四八％減少しています。

リフト事業と水道事業の企業会計では、まず、リフト事業会計が、収益的支出一億七千五百七十六万一千円（一四・四六％増）、資本的支出三千九百八十六万九千円（六五・五六％減）、水道事業会計は、収益的支出二億二千五百六十八千円（三一・一八％増）、資本的支出六

生活環境の整備

千四十三万六千円（一・〇一％減）となりました。（カッコ内は前年度比）

市民生活の「利便性、安全性、快適性」を求めると、市道を四十路線、約五千八百メートルにわたる舗装、改良をし、併せて橋りょう、河川の整備を強力に実施します。

市道舗装・改良工事	1億9,260万円
橋りょう整備事業	9,180万円
河川整備事業	2,730万円
土地区画整理事業	4,500万円
街路整備事業	6,460万円
除雪用スノーローダー購入事業	1,090万円
ごみ収集車購入事業	760万円
下水道整備事業	3億0,750万円
所野井戸ポンプ場設置事業	1,750万円
久次良配水管新設工事	1,500万円

社会福祉の充実

第二年度に入る障害者福祉のまちづくり事業の推進には昨年度以上に力を入れ、障害者が社会参加できるよう努力します。

消防関係では、湯元、所野地区に防火貯水槽を、山久保地区にサイレンを設置して地域住民の民生安定を図ります。市営住宅は、久次良地区に中層三階建一棟十八戸を建設する予定です。

障害者の「まち」づくり事業	1,120万円
勤労者福祉対策資金貸付事業	8,140万円
公営住宅建設事業	1億8,820万円
防火貯水槽新設事業	800万円
サイレン設置事業	450万円
日光地区消防組合負担金	2億2,920万円
(特)国民健康保険費繰出金	5,000万円
高額療養費貸付事業	300万円

表紙シリーズ

市民の中に
生きる文化財

日光下駄

江戸期の日光山内は、格式高く、参入についてもやかましいきまりがあり、履物も特製のものを着用することが習慣となっており、この履物がご免下駄と呼ばれて日光の下駄職の手で生産された。これが日光下駄の発祥である。

ところが、この下駄は「カエリがわるい」ためあまり普及しなかつたのであるが、これの実用化を考え、改良工夫したものが、現在の日光下駄と呼ばれるものである。

この下駄の発生は明治中期で、以来急速に需要がふえ、最盛期には、県内はもとより京都、奈良、大阪にまで販路が伸びた。しかし、近年の履物革命によって急激に需要が減り、生産地である日光ですら各社寺における特殊な使用のみとなり、これを製造する下駄職人も現在は、松崎良助さん（71歳・東和町）と山岡和二郎さん（62歳・東和町）の二人だけになってしまった。（昭和四十四年十一月十四日指定・指定二十一号）